

2025年日本惑星科学会秋季講演会開催報告

成田 憲保¹ (2025年日本惑星科学会秋季講演会実行委員長)



図1: 会場の21KOMCEE外観および会場内の様子。



1. 概要

2025年9月3日(水)から5日(木)の3日間、2025年度秋季講演会が東京都目黒区の東京大学駒場Iキャンパス21KOMCEEにて開催されました。参加者は316名、講演は208件でした。講演の内訳は、最優秀発表賞選考特別セッション講演10件、最優秀研究者賞受賞記念講演1件、通常口頭講演87件、ポスター講演110件でした。一般講演会は実施しませんでした。LOCは東京大学の日本惑星科学会員である成田憲保(LOC委員長)、黒川宏之、福井暁彦、田崎亮、瀧川晶(兼SOC委員長)、および、ウェブ担当の日向輝が務めました。会場の設営・撤収および会期中の会場係(学生アルバイト)として、多くの東京大学の大学院生も講演会運営に参加しました。また、日本惑星科学会員6名でSOCを組織し、プログラム編

1. 東京大学大学院総合文化研究科
narita@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

成をいたしました。本講演会の開催にあたっては、学会等からの補助金は受け取らず、独立会計で実施しました。

2. 開催まで

東京大学LOCによる秋季講演会は、本郷キャンパスで開催した2009年以來となる2回目でした。2023年7月に行事部会よりLOCの打診を受け、会場探しをはじめました。「口頭講演会場として250名程度を見込んだ参加者を収容可能」「口頭講演会場の近くにポスター会場も確保できる」「会期の1年程度前から予約可能」という条件のもと、学内施設を検討した結果、ほぼ唯一の解として駒場Iキャンパス21KOMCEE(図1)を選択しました。21KOMCEEはWest棟、East棟がそれぞれ2011年、2014年に完成した比較的新しい教育施設です。247名を収容可能なEast棟のK011講義室を口頭講演会場とし、

West棟のMMホールおよびそれらを繋ぐピロティをポスター会場としました。21KOMCEE内の他の小会議室・講義室を運営委員会や学会賞選考委員会の会場・参加者フリースペースとして使用しました。21KOMCEEから懇親会会場でもある生協食堂は隣接しており、コンパクトで移動の手間の少ない会場設定になったかと思います。他方、会場内のバリアフリー対応については情報収集・参加者への共有が遅れたことが反省点です。

LOCの活動は2025年4月から本格化し、5月末のJpGUにおける運営委員会および総会での開催案内、「遊星人」2025年第2号への案内記事掲載を経て、6月6日に秋季講演会ウェブページを公開しました。託児支援として会場周辺の託児施設をサーベイしましたが、利用の問い合わせはありませんでした。

参加申込締切(8月3日)を迎え、参加申込数(316名)が口頭講演会場の収容人数(247名)を大幅に上回るという事態が生じました。急遽の対応として、口頭講演会場の様子を放映するサテライト会場を21KOMCEE内に確保しました。当初の予定になかったこともあり、サテライト会場への中継については講演会前日まで試行錯誤をして対応することとなりました。なお、250名程度という当初の見込人数は、過去の実績をもとに行事部会と相談の上で設定されたものです。参加者の増加傾向が今後も続くのか、大学・研究機関の数が多い東京での開催であったことによる一時的なものかを注視しつつ、今後の秋季講演会の会場選びを行う必要があるようです。

3. プログラム編成

6月30日に発表申込を締め切り、最終的に208件の発表申込を受け付けました。この件数は2024年度講演会(九州大学LOC)の246件の8割程度でした。多くの発表申込に感謝申し上げます。近年に比べると口頭講演枠が逼迫する状況はやや改善しました。

プログラム編成はSOCを組織して行いました。SOCは、LOCを兼任する瀧川品会員を委員長とし、小玉貴則会員、野津翔太会員、兵頭龍樹会員、堀安範会員、諸田智克会員にご担当いただき、日本惑星科学会の広い研究分野をカバーする体制としました。「口頭・ポスター講演どちらでもよい」とされた申

込の全てと「口頭講演希望」とされた講演について、抄録を元に議論をおこない、今年度のセッションと口頭発表講演を決定しました。最終的に、最優秀発表賞選考特別セッション講演(15分)10件、最優秀研究者賞受賞記念講演(40分)1件、通常口頭講演(10分)87件、ポスター講演110件のプログラム編成となりました。ポスターは会期を通じて掲示可能とし、各日1時間のコアタイムを設けました。

4. 開催当日

会期を通して、口頭講演の各セッションで活発な質疑が行われ、ポスター講演もコアタイムを中心にたいへん盛況でした。昼休みの時間には、口頭講演会場を使って太陽系探査関連グループによる報告と議論も行われました。2日目の総会においても、惑星科学会の運営に関する活発な議論が行われました。総会では、学会賞選考委員会より、最優秀発表賞受賞者(所司歩夢会員、日向輝会員)、優秀発表賞受賞者(北出直也会員)が発表され、表彰が行われました。続いて、2024年度最優秀研究者(大野和正会員)の表彰と受賞記念講演が行われました。

会期3日目には運悪く台風が日本を横断し、東京も大雨に見舞われたものの、秋季講演会は滞りなく終わることができました。タイトなプログラムを予定通り進行してくださった座長の皆様、参加者の皆様に感謝申し上げます。また、終了後の撤収作業においては、東京大学LOC・学生アルバイトに加えて、多くの学生有志が手を貸してくれました。参加者が一体となって秋季講演会を作り上げる姿勢を体現した姿にLOC一同感激をし、ここに改めて感謝を記したいと思います。

5. 懇親会

懇親会会場は講演会場からアクセスのよい東京大学駒場生協食堂としました。事前申込制とし、124名の申込がありました。懇親会では今村剛会長に乾杯の音頭をとっていただき、会の中では2026年度LOCである野口里奈会員による2026年度秋季講演会と懇親会への期待を大いに盛り上げのご挨拶いただきました。総じて、タイトな講演会プログラムを補う

交流の時間となったと感じています。

他方、懇親会においては料理が早々になくなってしまふという問題もありました。普段大学生のコンパとしても利用される生協食堂での開催であり、秋季講演会の参加者層には十分な量があると想定していたのですが、結果として読みが甘かったと反省しています。

6. 謝辞

秋季講演会を盛況のうちに実施できましたことを、各セッションの座長、講演者はじめ全ての参加者の皆様に感謝いたします。また、プログラム編成にご協力いただきましたSOCの皆様、丁寧な引継を行ってくださった前年度の九州大学LOCの皆様にも深く感謝申し上げます。そして、最後になりますが、秋季講演会の円滑な進行を色々な面でサポートして下さいました学生アルバイトの皆様、本当にありがとうございました。